三重県議会議員
いしがき　ともや
石垣 智矢
県政活動報告

智の輪

TOMO-NO-WA

～ 地域の輪が次の時代を創る ～



Vol.1　2020（令和2）年　春号

編集・発行責任者 / 石垣智矢　住所 / 三重県員弁郡東員町北大社801
TEL・FAX / 0594-41-2477　E-mail / toinman1105@gmail.com



一般質問に初登壇しました

令和元年10月2日

① 県北勢地域における記録的豪雨災害について
② 豚コレラ（CSF）対策について
③ 若者の県内定着に向けた取り組みについて
④ 三重とこわか国体・とこわか大会後の競技力向上について

①県北勢地域における記録的豪雨災害について

問　令和元年の９月４日から６日にかけて、県北勢地域で記録的な大雨に見舞われました。多くの市町で１時間当たりの雨量が100ミリを超え、東員町や菰野町の河川では水位が急激に上昇し、命の危険があることを示す大雨警戒レベル５が三重県で初めて発表されました。県内では５万世帯以上、約14万人を対象に避難指示および避難勧告が相次ぐ事態となりました。今回の災害を受けて、県としての豪雨災害への対応は十分であったのか、そして、今後の豪雨災害への対策や備えをどのように考えているのか。





答　防災対策部長　今回の豪雨は、四日市市やいなべ市、菰野町で記録的短時間大雨情報が、北部各地では土砂災害警戒情報が発表される事態となりました。被害総額は９月26日現在で、約20億円を超えています。県では、警報発表後すぐに災害対策本部を設置し、被害の発生に備えて気象庁や関係機関、市町からの情報収集に努めるとともに、LINEやツイッターなどのSNSで県民に警戒を呼びかけました。また、災害対策本部要員の増員を図り、東員町からの要請に応じて職員１名を派遣しました。明け方になってからは県警察ヘリによる上空からの情報収集を行い、重要である初動対応に当たったところです。今後の豪雨災害への対応は、今回のように短時間の大雨が発生した場合でも、市町からの要請を待つことなく県職員を派遣する対応を考えています。また、SNSによる情報発信を充実できるよう人員配置体制の強化等も検討していきます。

②豚コレラ対策について

問　県内での豚コレラ感染拡大防止対策を長期的な計画のもと、どのように取り組んでいくのか、そしてそれに付随して、風評被害への対策を具体的にどのように行うのか。

答　農林水産部長　中長期的な対策として、飼養豚へのワクチン接種をはじめ、農場の飼養衛生管理基準の遵守徹底、農場を囲う防護柵の設置が重要であると考えます。飼養豚へのワクチン接種は、国から豚コレラに関する特定家畜伝染病防疫指針の見直し案が示され、豚への予防的ワクチン接種の推奨地域に本県を選定するとの案が示されました。現在、接種に必要な資機材の確保や体制整備などの準備を加速させています。県産豚肉の風評被害対策は、流通事業者への取引拡大を進めるマッチング交流会の開催、消費者向けの消費喚起キャンペーンを実施し、消費維持や拡大を図ります。さらに、県内シェフとのコラボによるメニュー開発やホテルなどへの食材PRなど、三重の豚肉を応援できる体制をつくります。



問　地域の方々から、埋却地の悪臭や景観の問題など様々な意見が上がっています。経営再開するための埋却地確保などの問題がある中で、地域住民の理解、協力を得るための課題解決をどのように行うのか。

答　農林水産部長　県では早急に埋却地全体の盛土や整地を行うとともに、埋却地を囲う野生動物侵入防止ネットの設置を考えています。また、景観については、道路から直接埋却地が見えないようにするための植樹などの対応策を検討しています。

③若者の県内定着に向けた取り組みについて

問　本県では、人口減少の課題解決のために、県外への流出抑制と県内の流入促進に力を入れて取り組んでいます。しかし、平成20年から転出超過の状態が続いており、ここ最近では、平成29年・30年と二年連続で4000人を超える転出超過数となっているのが現状です。その中でも、進学や就職に伴う15歳から29歳までの若者の転出超過数は全体の約８割を占めており、若者の人口流出をいかに食いとめるかが大きな課題です。そこで「若者県内定着緊急対策会議」などでの議論を踏まえ、若者の県内定着に向けた考え方や取り組み方針などが「みえ県民力ビジョン・第三次行動計画（仮称）」中間案にどのように反映されているのか。

答　戦略企画部長　若者の転出超過の大きな要因は、大学等への進学や就職などが背景にあると考えられます。若者県内定着緊急対策会議で有識者や若者の意見を踏まえて検討した中で、進学時においては、若者一人ひとりの学びの選択肢の拡大や県内高等教育機関の魅力発信を行う必要があります。就職時においては、若者が重視するやりがいや働きやすさ、給与の要件を満たす働く場を創出していくことなどの取り組みが重要です。こうした検討を踏まえて、第三次行動計画（仮称）と一体的に策定する第二期の「三重県まち・ひと・しごと創世総合戦略」において、「活力ある働く場づくり・未来を拓くひとづくり・希望がかなう少子化対策・魅力あふれる地域づくり」の４本柱に総合的に取り組む考えです。地域や仕事などで誰もが活躍できる環境づくりをすることにより、未来を担う若者の県内定着につなげていきたいと考えています。

問　少子高齢化や18歳からの選挙権などの影響を受けて、若者に特化した政策展開をする自治体が注目を集めています。静岡県では、県の将来像を若者たちのアイデアによってより良い議論を深める県民会議が行われています。秋田県では「若者たちが秋田を変える！」をスローガンに、地域資源を活用した全県合同若者会議プロジェクトを行っています。どちらも若者世代が自主的・自発的に取り組んでおり、大人の視点や考え方だけでは若者は動きません。本県の次代を背負う若者力として、今後の施策展開に若者が主体となり自主的に活躍できる視点を取り入れる考えはあるか。

答　鈴木知事　様々な課題解決および夢や希望の実現に向かうためには、行政だけでなく、企業や大学、NPOや地域の方々などの力を結集し、新しい三重づくりに参画していただくことが重要だと考えます。そこで、みえ県民力ビジョンの基本理念に、県民力による「協創」の三重づくりを掲げ、多様な主体と連携しながら施策の推進を図ってきました。第二次行動計画の重要施策の中には、子育て中の若い父親も参加しているみえの育児男子プロジェクト、子どもの夢の実現を大学生や企業関係者が支援するみえの子ども夢実現応援プロジェクトなど、若者が参画した取組も数多く含まれています。令和２年度には、若者をはじめ県民の皆さんが主体的に参加できる仕組みづくりとして、県民参加型予算「みんつく予算」を導入する予定です。若者が主体となった地域づくりは非常に重要な観点であるため、今後も主体的に参加できる協創の取り組みを進めていきます。また、私が訪問した被災地の宮城県女川町では、あえて30代・40代の次の世代の人たちを中心に復興ビジョンをつくった事例があります。その結果、現在の女川町は他の被災地と比べて復興が進んでいる状況などもありますので、様々な施策展開において、若者が主体的に関わることを重視しながら進めていきます。

④三重とこわか国体・とこわか大会後の競技力向上について

問　2021年に開催される三重とこわか国体・とこわか大会を契機に、競技人口が少ない競技などに光を当てたPRに積極的に取り組むべきだと考えます。競技の裾野の拡大が図られ、国体後の競技力維持および向上につながると考えますがどのような考えか。

答　地域連携部国体・全国障害者スポーツ大会局長　本県には、国体正式競技である41団体を中心に数多くの競技団体があります。各競技団体で独自に競技の普及や振興に取り組んでいただいておりますが、競技人口の少ない競技は、団体の役員や運営人数も少ないため、競技会の開催や選手の強化、組織の運営など様々な業務に十分に人員を割けない課題があります。そこで、体験会などの企画を県が取りまとめてチラシを作成し、実施会場周辺の小・中学校の児童・生徒へ直接配布するなど、様々な支援を行っています。また、県民の日記念イベントや国体のPRイベントなどで体験会の場を提供し、競技の魅力を伝える取り組みも進めています。2021年は三重とこわか国体本大会、2020年はリハーサル大会も行われる事から、ここ２年間は、県内各地で多くの競技会を観戦できるチャンスとなります。このため、各市町に対して多くの人に競技会に来ていただくために、住民の皆さんへ周知徹底を働きかけていきます。特に子どもたちは、競技を自分たちの地域で見る事により、競技の魅力とすばらしさが強く印象に残るため、この機会をいかして競技力向上や様々な競技種目を志すきっかけづくりに取り組んでいきます。

予算決算常任委員会の総括的質疑に会派代表で質問しました！ ※内容は抜粋

令和元年12月9日

『交番および駐在所の安全性』について

問　近年では、交番にいる警察官が襲撃をされる凶悪な事件が多発しています。県民の安心・安全を確保するためにも、交番および駐在所の安全性を今後どのように確保していくのか。また、犯罪の未然防止の観点から、交番への防犯カメラ設置が有効だと考えますが、現在の設置状況と、今後の防犯カメラによる犯罪未然防止をどのように考えているか。

答　現在三重県警では、職員に緊張感をもって勤務にあたることや訓練をしっかり行うことに取り組んでいますが、対策として十分ではなく、施設や勤務体制の見直しが重要だと考えています。勤務体制では、一人勤務を少なくすることで犯罪の未然防止および安全の確保に取り組んでいます。施設面では、カウンターや机などの配置を変えて訪問者と一定の距離を保つような工夫をし、安全確保に努めています。防犯カメラは、未然防止の観点から非常に重要だと考えています。県内交番全200カ所の設置状況は、数年前まで数カ所のみでしたが、令和元年度中に30カ所の交番に設置を予定しています。残りは来年度以降に予算要求を行いたいと考えています。

『三重テラスの運営状況』について

問　平成25年9月からオープンした三重テラスは、30年度は4つの運営指標で成果を出していますが、来館者数は二年連続で減少しています。雇用経済部次長は、委員会内の答弁で「工夫を凝らした来館者数の増加に取り組む」と発言していますが、令和２年度はどのような工夫をもって来館者数を増やす取り組みを行いますか。また、アンテナショップとしての販売促進も大事だが、関東圏で三重をPRし、観光者・旅行者・移住者をいかに増やすかが重要だと考えますが、どのような考えか。

答　平成30年度の来館者数は、目標61万人を掲げたが約57万人にとどまる結果となりました。令和元年12月時点では、来館者数は上向き傾向であるため、今年度も引き続き新規三重ファンおよびリピーターの確保などに取り組みます。また、アンテナショップセルフサービス部門賞を受賞したことにより、量より質の観点に着目し、現在のリピーター率61％をさらに高めるための賞品棚レイアウトの変更や接客の向上などにも工夫を凝らしながら行っていきます。観光者や移住者などにつなげるための取り組みは、三重テラス2階に職員が常駐し、イベントブースや観光案内を行っています。熊野古道世界遺産15周年登録の記念事業や三重ひじきの食育授業などに多くの参加者が訪れ、三重の魅力を感じていただきました。他にも市町主催の移住相談セミナーや移住に関する連続講座を行っており、「移住相談センターええとこやんか三重」と連携をしながら、移住者獲得に向けて具体的に取り組んでいきたいと考えています。

上記の他に「子どもや子育て世代への防災啓発の考え方」について、「CSF（豚コレラ）対策に係る野生猪の捕獲強化事業」について質問しました。

教育警察常任委員会 令和元年度県内調査



名張市立つつじが丘小学校
（名張市）

英語教育を切り口とした、コミュニケーション能力を高めるための取り組み調査を行いました。

（令和元年７月５日）



三重県立かがやき特別支援学校あすなろ分校
（津市）

特別支援学校のセンター的機能を活用した、広域的、段階的な支援態勢を構築し、関係機関と連携しながら支援を進める取り組みについて調査を行いました。

（令和元年７月５日）



三重県立明野高等学校
（伊勢市）

農産物の安全や環境保全への取り組みを認証する規格取得の取り組み調査

農場や実習施設の見学および規格取得に取り組む生徒と意見交換を行いました。

（令和元年７月30日）



県警本部交通部交通指導課運転免許センター
（津市）

可搬式速度違反自動取締装置（移動オービス）で速度違反の取り締まりを実施することによる、生活道路や通学路での速度抑制を図る取り組みについての調査を行い、装置による速度測定の見学を行いました。

（令和元年７月30日）

主な県外視察調査活動報告





北海道県外視察調査（令和元年８月27日～29日）

◆SDGsのモデル都市実現に向けた取り組みについて（札幌市役所）

国が指定する「SDGs未来都市」に選ばれ、積雪寒冷地ならではのエネルギー消費量による環境問題を起点としたSDGs達成に向けた取り組み調査を行いました。



◆地域医療施策推進事業について（稚内市役所）

人口10万人あたりの医師数が道内で最も少なく、また人口や地理的条件を加味した基準から見ても深刻な医師不足に直面する稚内市を含む宗谷圏域の調査を行いました。



◆高レベル放射性廃棄物の地層処分技術に関する研究開発について

（幌延町深地層研究センター）

原子力発電にともなって発生する、高レベル放射性廃棄物地層処分技術の研究開発を行っているJAEA（国立研究開発法人　日本原子力開発機構）の幌延深地層研究センターの現地調査を行いました。

沖縄県県外視察調査（令和元年11月18日～20日）





◆沖縄県の防衛について（沖縄防衛局）

那覇空港周辺の陸海空基地および米軍基地による県全土の防衛について調査しました。

◆辺野古基地建設の現状について（辺野古公民館）

交通安全運転研修の取り組み状況について調査を行い、実際に研修用車両を運転し、安全限界の体験を行いました。



◆南西諸島の離島防衛態勢について（与那国駐屯地）

台湾との距離１１１キロに位置する日本最西端の島・与那国島とその周辺海域警備の調査を行いました。

◆尖閣諸島周辺の領域警備について（第十一管区石垣海上保安部）

現在の尖閣諸島周辺の状況および今後の動向についての調査を行いました。

その他の県外視察調査

- 仙台市議会（宮城県仙台市）仙台版キャリア教育の取り組みについて
- 警視庁科学捜査研究所（東京都千代田区）
  科学捜査の研究および鑑定の最新動向について
- 宮城県立松島高等学校（宮城県宮城郡松島町）
  地域連携による、宮城を支える人材育成の取り組みについて
- 自動車安全運転センター安全運転中央研修所（茨城県ひたちなか市）
  交通安全運転研修の取り組みおよび研修用車両にて安全限界の体験運転調査
- 町いち村いち2019フェスティバル（東京都丸の内東京国際フォーラム）
  全国町村自治体における移住者・観光者獲得に向けた取り組みについて
- 新国立競技場（東京都新宿区）県産木材の利用拡大を図る現地調査について









一年を振り返って

皆さまのお力添えのもと初当選をさせていただいてから、早くも１年近くが経過しました。

県議会議員としての役職は、教育警察常任委員会に所属し、教育委員会および公安委員会（警察本部）に関連する審査ならびに調査をさせていただきました。また、広聴広報会議の委員として「みえ県議会だより」の発行や出前講座の実施などに取り組ませていただきました。広聴広報機能の充実は、町議会議員の頃より積極的に取り組んできた内容です。今後も地域の皆さまからのご意見・ご要望に耳を傾けながら、議会活動や議員活動の発信にしっかり取り組んで参ります。他にも、議会改革に先進的に取り組むための議会改革推進会議の監事を拝命しております。全会派からの有志議員で構成するスマート議会勉強会にも所属し、ICT化による新たな県議会のあり方についても協議を行ってまいりました。

この１年は「令和」という喜ばしい改元の年ではありましたが、豪雨災害や台風、地震などの自然災害に苦しめられた一年でもありました。また、CSF（豚コレラ）問題や人口減少による少子高齢化問題への対応、SDGsやSociety5.0などの未来社会実現への取り組みなど、新たな課題に向き合わなければならない時代へと突入しました。

三重県内の課題解決に向けた取り組みは当然ですが、地元いなべ市・東員町こそがわたしの活動の原点です。地域のために出来ることに果敢に挑戦し、今後も県政および地域発展のために尽力いたします。

何卒、皆さまからのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

石垣　智矢

お気軽にお問い合せ下さい

三重県議会議員 石垣 智矢（ともや）事務所

〒511-0257 三重県員弁郡東員町北大社801番地

TEL/FAX：0594-41-2477

E-mail：toinman1105@gmail.com

Facebookにて日々の活動を配信中→